

令和 8 年度 第 1 回 運営推進会議 議事録

日 時：令和 8 年 4 月 16 日（木）

時 間：10：30～11：30

場 所：櫻ホーム西神（4 階多目的室）

出席者：別紙 運営推進会議参加者一覧表参照

1. 開会

司会より開会の挨拶があり、令和 8 年度第 1 回運営推進会議を開催した。

2. 出席者紹介

出席した職員および地域関係者より自己紹介を行った。

4 月より新たに着任した職員（生活相談員、介副主任、ケアマネジャー等）についても紹介を行った。

3. 施設長挨拶

櫻ホーム西神は開設 7 年目を迎えたこと、これまで地域や関係者の支えにより運営を継続できていることへの感謝を報告した。

令和 8 年度は、サービスの質の向上を重点課題とし、特に昨年度の反省を踏まえ、初動対応力の向上とコスト意識の徹底に取り組む方針を示した。

また、昨年度は離職がほぼなく、職員体制が安定したこと、新規職員を確保できたことから、今後は安定した人員体制を基盤に、より質の高い支援を目指す旨の説明を行った。

4. 事業運営に関する報告

(1) 稼働率等の報告

令和 7 年度の特養稼働率は、目標 98%に対し、97.7%であった。

空床ショートステイについては、目標 40%に対し、31.4%であり、令和 8 年度は達成に向けて改善を図る方針が示した。

(2) 入居者状況

4 月 1 日時点の入居者状況について報告を行った。

ユニット型は定員 80 名に対し 79 名利用、そのうち入院者 2 名で実利用 77 名であった。

地域密着型については定員 20 名に対し、入院者 1 名を含み 19 名利用であった。

(3) 平均介護度

4月1日時点の平均介護度は、ユニット型 3.87、地域密着型多床室 3.70 であった。
全国平均との比較を行い、引き続き重度者の受入れも含めた運営を進めていくことを報告した。

(4) 入居申込状況

4月1日時点の入居申込者は7名（男性1名、女性6名）で、ユニット型申込者の平均介護度は3.5、平均年齢は88歳であった。

今年度は待機者数を増やすことを目標とし、申込者確保に取り組む方針を示した。

(5) 職員動向

退職者は介護職員1名、厨房パート職員1名であった。

新規採用として、介護の正規職員5名が入職し、現在研修等を実施しながら育成を進めていることを報告した。

5. 令和7年度の振り返り

(1) 入院分析

昨年度の入院理由として最も多かったのは誤嚥性肺炎・肺炎疑いで、合計13名であった。そのほか、尿路感染6名、転倒による骨折5名等を報告した。

また、冬季には施設内でインフルエンザA型が発生し、それに関連した入院も多見られた。

今年度は、誤嚥性肺炎の予防や感染症対策を継続し、全職種で対策を検討していくことを報告した。

(2) 月別入院件数

11月・12月に入院件数が多く、インフルエンザ流行の影響が大きかったことが報告された。今後も施設内感染予防に努める方針が示した。

(3) 水分摂取量の分析

令和7年度は水分摂取量を年間通して確認し、入院や事故との関連について分析を行った。施設全体の1日平均水分摂取量は1,068ccで、目標の1,000ccは達成していた。

一方で、水分摂取量が少ないユニットでは、入院率や感染症罹患率、転倒事故が多い傾向が見られた。今年度も引き続き水分摂取の促進に取り組むことを報告した。

(4) 入居申込分析

令和7年度の入居申込件数は45件で、主な申込元は医療機関、居宅介護支援事業所、老人保健施設、小規模多機能事業所であった。そのうち12件が入居につながった。

近年は自宅からの申込も増えてきていることから、今後も在宅からのニーズ把握に努めることを報告した。

6. 令和 8 年度の重点取組

(1) 初動対応の強化

今年度は、事故や体調変化等に対する初動対応の徹底を重要課題とし、「いつ・どこで・誰が・何を・どうしたか」を明確にした報連相を徹底し、迅速かつ正確な対応につなげる方針を示した。

(2) コスト意識の向上

光熱費やおむつ代等の高騰を踏まえ、施設運営にかかる費用を見える化し、無駄を減らす取組を進める。具体的には、無人時の照明・空調の消し忘れ防止や、水道・電気使用状況の確認などを徹底し、収支の安定化を図ることが説明した。

(3) 地域との連携強化

地域行事への参加や、櫻ホーム西神主体のイベント企画を進める方針が示した。

認知症カフェ「さくらカフェ」の充実、健康体操等の地域活動を引き続き実施し、地域とのつながりを深めていくことが報告した。

(4) BCP・防災への取組

災害時に備え、地域と連携した BCP（事業継続計画）の体制づくりを進める方針が示した。地域防災訓練等への参加を通じて、施設と地域が協力できる仕組みを整備していく考えが説明した。

7. 事故・ヒヤリハット報告

令和 7 年度の事故報告件数では、転倒・転落事故が 138 件と多くを占めていた。また、服薬関係の事故も 27 件と多かった。要因として、服薬時の確認不足が課題として挙げた。これを受けて、令和 8 年度はヒヤリハットを随時記入できる様式を導入し、事故予防につなげていく方針が示した。

8. デイサービスセンターさくらさく 報告

4 月 1 日時点の登録者数は 32 名で、平均介護度は 2.8 であった。令和 7 年度の稼働率は 90.3%で、目標を上回る結果となった。故件数は 6 件で、大きな外傷はなかった。

レクリエーションや誕生日会、認知症カフェ、地域活動等を通じて、利用者の楽しみや役割づくりを重視した支援を継続しているとの報告を行った。

また、今後も家族支援や関係機関との連携を継続し、在宅生活の継続支援していく方針が示した。

9. 意見交換

(1) 地域活動について

第三者委員より、桜ヶ丘方面でのカフェや体操等の開催希望が出された。

高齢者が集まりやすい場所として集会場の活用が提案され、今後具体的に進めていく方向で確認

した。

(2) 水分摂取について

地域高齢者に対しても、水分摂取の重要性を伝えてほしいとの意見があった。施設での分析結果を地域啓発にも活かしていくことが期待された。

(3) 事故予防について

事故件数が多いことを踏まえ、日常的にヒヤリハットを出しやすい仕組みづくりが必要との意見があった。

施設側からは、令和 8 年度より新たな様式を活用して、すぐに記録・共有できる体制を進めているとの説明を行った。

(4) 防災体制について

災害時の福祉避難所受入れについて、実際の運用や地域との連携に課題があるとの意見が出された。

施設長より、西区施設長会等の場で地域課題として提案し、行政との連携も含め検討していくことを共有した。

(5) 採用について

居宅介護支援事業所さくらさくでケアマネジャーを募集している旨の案内を行った。

第三者委員より、地域全体でもケアマネジャー不足が課題となっており、情報提供の協力依頼があった。

10. 閉会および次回開催予定

次回会議は**令和 8 年 6 月 18 日 10 時 30 分～11 時 30 分**に開催予定であることを確認した。